

所在地：沖縄県北大東村

選定年月日：平成30年10月15日

面積：162.4ha

選定基準：二(一)(五)(六)(八)

## (1) 概要

北大東島は沖縄本島東方約360kmに位置する隆起珊瑚礁を起源とする地形を持つ南洋の離島であり、明治期に入って開拓が始まった歴史を持ちます。

特に、化学肥料の原料となる燐を多く含むグアノ（鳥糞石）が広く堆積していたことから、大正時代から戦後直後にかけて燐鉱石採掘が盛んに行われました。現在も島の北西部に位置する西港周辺では、採掘場、トロッコ軌道、燐鉱石貯蔵庫、船揚げ場等の燐鉱石採掘に関連する一連の生産施設が国内唯一残り、当時の社宅及び福利厚生施設等の生活関連施設が住宅群や民宿として継続的に利用されています。これらの施設では、珊瑚が風化して生成されたドロマイトの白い切石が多用されており、独特の景観を呈しています。

現在の北大東島の主産業はサトウキビ生産ですが、技術発展とともに近海漁業も盛んになりつつあり、西港周辺ではサトウキビ畑・ため池が広がる一方、往時の施設を利用した魚市場及び水産加工施設が点在します。

日本列島南方の特殊な風土によって形成された離島において、大正時代から戦後直後にかけて燐鉱採掘が行われていたこと及びその後の産業変遷を知る上で重要な景観地です。



遠景



社員倶楽部遺構（式六荘）

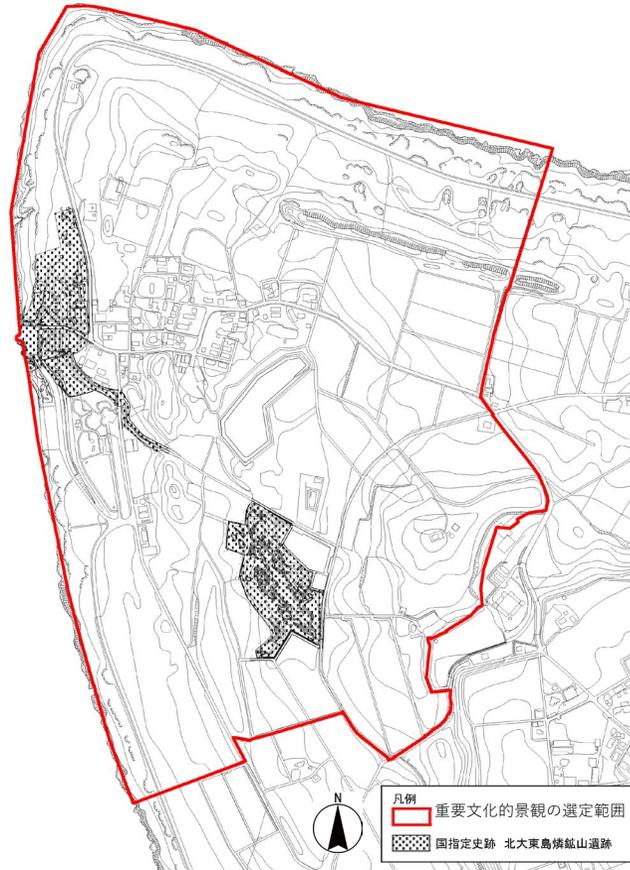


トロッコ軌道跡



ドロマイト石垣群

## (2) 選定範囲



- 重要な構成要素：31件
- 国指定等文化財：北大東島燐鉱山遺跡（史跡）、燐鉱石貯蔵庫跡、積荷棧橋跡、北大東島出張所遺構、末吉邸、社員風呂場遺構、社員倶楽部遺構、下坂村大衆浴場遺構（登録有形文化財（建造物））

## (3) 選定による効果

選定後、自治会、活動団体(青年会や婦人会等)、事業者、行政などが、北大東島の良好な景観づくりや、文化的景観の保存・活用に関わる様々な事業や活動などについて検討協議する「うふあがり(沖縄の方言で北大東の意)景観協議会」が発足しました。青年会による清掃作業や、福祉と連携したうふあがりウォーキング大会、景観づくりワークショップを開催し、村民の文化的景観に対する理解や認知度は向上しています。

この他、重要な構成要素への解説サイン設置や、観光部局と連携しツアーの実施など、観光客などにも認知していただけるよう努めています。



青年会による文化財清掃活動



重要な構成要素に設置されたQRサイン

## (4) 保存活用計画などの基礎情報

- 「北大東島の燐鉱山由来の文化的景観」調査報告書（2017年12月、北大東村教育委員会）
- 「北大東島の燐鉱山由来の文化的景観」保存計画（2017年12月、北大東村教育委員会）
- 重要文化的景観「北大東島の燐鉱山由来の文化的景観」整備活用計画（2023年3月、北大東村教育委員会）

## (5) 活用事例

### 事例47-01 ①

### 重要文化的景観を基盤とした島づくりを掲げる北大東村総合計画

#### ●行政による取り組み

北大東村総合計画は、島の生活・生業・自然の風景など、開拓から120年余かけて先人たちがつないできた歴史のなかで形成されてきたものを「北大東らしさ」と捉え、これを活かすことで持続的なしまづくりにつながるの考えのもと、令和2～4年度の検討を経て、策定されました。

総合計画には、村が優先して取り組むべき課題に対して、リーディングプロジェクトが5つ定められています。この1つに「文化的景観を活かしたプライドの醸成と観光交流」があります。燐鉱石採掘産業時代のなごりを残す場所や施設を、そこにしかない魅力として地域づくりや観光に積極的に活用し新たな価値をつけていく取り組みを進めて行くこととしています。

重要文化的景観の活用整備（事例47-01②参照）のほか、村民一人ひとりが北大東らしさを認識し、島へのプライドの醸成することや、北大東らしい景観づくりを島内に波及させ、地域住民と連携しながら北大東らしさ（文化的景観）を育て、魅力的な島づくりと観光振興につなげていくことなども掲げられています。

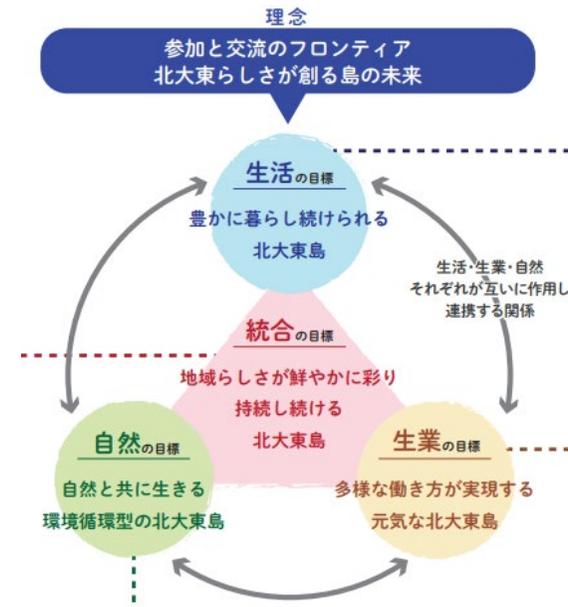
このプロジェクトは、経済課や福祉衛生課との連携のもと、教育委員会が中心となって推進することが定められています。総合計画のもと、産学官民が課題を共有し、力を持ち寄って協働することによって、北大東らしさが継承・発展されることを目指しています。

団体等情報：北大東村ホームページ

[https://vill.kitadaito.okinawa.jp/docs/2022030200029/file\\_contents/sougoukeikaku2023.pdf](https://vill.kitadaito.okinawa.jp/docs/2022030200029/file_contents/sougoukeikaku2023.pdf)



文化的景観とSDGsの要素を取り入れた北大東村総合計画



理念と4つの基本目標。この下の方針、リーディングプロジェクトが掲げられている

① 地域内での魅力の共有

② 目標性の共有

③ 広域外への広報

④ 魅力を引き出す

⑤ 確保と運用

⑥ 人づくり

## (5) 活用事例

### 事例47-01 ②

### 島民と観光客による参加と交流の重要文化的景観拠点エリアづくり

文化庁補助金

#### ●行政と住民等の協働による取り組み

かつて燐の積み出し港であった西港の背後に広がる一帯には、採掘が行われていた当時の遺構などが残り、ここを「重要文化的景観拠点エリア」として整備する計画が進んでいます。

選定前の平成26年に水産事業の一環で、燐鉱採掘の拠点であった北大東島出張所の遺構の復元整備が実施され、「りんこう交流館」としてオープンしました。燐鉱山に関する展示が行われるとともに、マリンレジャーの拠点、飲食店として利用されており、島民や来訪者が集う賑わいの空間となっています。これをきっかけに、その周辺に存在する遺構や歴史的な建造物を島の活性化に寄与する場として活用することに、島民の期待が高まっています。

ワークショップなどを通して島民の参加を得ながら、令和4年度には重要文化的景観の整備計画、同5年度には拠点エリアに関する整備計画を策定し、これに基づいて、燐鉱採掘時代の拠点となっていたエリアを、現在の島民と観光客のニーズに合わせて整備し、参加・交流を通して賑わいを生む拠点づくりを目指しています。



登録有形文化財（建造物）でもある、りんこう交流館の変遷  
（左上：戦前の出張所跡、右上：整備前、下：現在の姿）



拠点エリア整備予定箇所

#### 島民の声（観光振興関係者の声）

- 島民と観光客がゆるく繋がれる場所づくりをしたい。夜は居酒屋(りんこう交流館内)があるが、お昼にファミリーや観光客が休憩したりお茶したりできる場所が欲しい。
- 他にも、港が近いので釣った魚を使ってBBQできる場所や星空観察もあるとよい。
- また、文化的景観を一望できる視点場整備も重要だと思う。



未整備の遺構を学びつつ拠点づくりを考えるワークショップ

① 地域内での  
魅力の共有

② 目標性の共有

③ 広域外への

④ 魅力を開発

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり